

## 別添 1 平成 30 年度 代表的な技能者について

1 小泉 正弘 氏 (73歳) 鑄込工【(有)和銅寛 TEL:075-956-0789】

《名簿番号 4》

### ◆金属工芸品制作の技法全般から古代の鑄造技術の考察を踏まえた銅鐸の復元製作まで

京都府推薦

大量生産も可能な象嵌七宝花器（ぞうがんしっぽうかき）等の工芸品制作の技法全般に習熟するだけでなく、古代の鑄造技術の考察を踏まえた真土（まね）式鑄型の技法による銅鐸の復元製作など、青銅器製作等の技能に卓越し、各文化財保護関係者、博物館等からの依頼により銅鐸等の復元を行っている。また、教育機関へ赴き、銅鐸等復元の実習等の授業を行うなど、伝統的な蠟型（ろうがた）鑄造技法の技術継承等において多大な貢献をしてきた。

### ◆社会の変化に危機感を持って情報収集

鑄造所の長男として生まれ、高校の金属工芸科を卒業後、修業期間を経て 19 歳で家業を継いだ。職人任せの非効率な手作業、粉塵が飛び散る不衛生な作業場等、昔ながらの仕事のやり方に危機感を覚え、新しい技術のみならず、古代の技法や先人の失敗談など、知識の吸収に努めた。その結果、新たな注文も増え、需要の変化に対応出来るようになった。困難を伴う仕事も多いが、「それもまた楽しい」と前向きに語る。

長男が後継者として活躍中だが、今も後継者育成に取り組みながら、「多くの人に出会うと知識欲が湧いてくる」と、海外の鑄造技術の研究等を通して、金属工芸の原点を追い求めている。

### ◆作業風景写真



[銅鐸の鑄造を再現]

### ◆作品写真



[渦森復元銅鐸（神戸・住吉資料館蔵）]

2 山下 壽志 氏 (56歳)

板金工【トヨタ自動車(株) TEL:0565-28-2121】

《名簿番号20》

### ◆0.05mmの平滑度まで仕上げられる板金手加工技能

愛知県推薦

37年間にわたり一貫して試作車のボデー製作に関わる板金加工に従事し、特に精度の要求されるモーターショーのボデーパネルでは、平板から手加工のみで製作できる加工技能と、優れた視覚・触覚により0.05mmの平滑度まで仕上げられる卓越した技能を有している。更にアルミ手加工では焼きなまし手法を確立し、自社初のアルミボデー量産化に繋げた。また、中央技能検定委員をはじめ社内外での指導・後継者育成を通し、板金技能の普及に貢献している。

### ◆製品を手にしたお客様が思わず笑顔になり、他人に自慢したくなるモノづくり

トヨタ自動車に入社後、技能五輪打出し板金の訓練生として3年間経験を積んだ後、試作車を製作する部署に配属された。技能五輪で学んだ板金の知識や技能にある程度自信はあったが、ベテランが持つカン・コツが掴めず品質や製作時間に大きな差があり、「悔しい思いをした半面、板金の手加工技能の奥深さや面白さを知るきっかけとなり、魅かれていった」と、向上心が芽生える転機となった。

「常に製品を手にしたお客様が思わず笑顔になり、他人に自慢したくなるモノづくりに、拘りと責任を持って取り組むことができる心を継承していきたい」と、現在も新技術と技能の融合に日々研鑽し、世界トップの技能に挑戦し続けている。

### ◆作業風景写真



[ボデー外板部品の製作風景 (左: 打出し板金作業、右: 平滑度確認)]

### ◆作品写真



[板金手加工で製作した (トヨタ・AA型乗用車1/5モデルとグローブ)]

### 3 石田 幸平 氏 (45歳)

電気めっき工【(株)野村鍍金 TEL:084-934-1201】

《名簿番号31》

#### ◆めっきの学術理論を製造現場に適応させるめっき特級技能者／製鉄業界はじめ各種産業機械分野への多大なる貢献 団体推薦

製鉄用連続鋳造金型への合金めっきに卓越した技能を有している。長年の現場経験とめっきに関する高度な知見から、特殊専用治具を考案し合金組成比率を制御したまま約2.5㎡にも及ぶ巨大金型部品にコバルト・ニッケル合金めっき(皮膜3mm)を付与することを可能にしている。氏の技能により鋳造金型の耐食性・耐摩耗性が飛躍的に改善され、国内鉄鋼メーカーの生産性を20%以上向上させ、日本の国際競争力強化に著しく寄与した。

#### ◆顧客の役に立つものを作り出す

大学で冶金学を専攻し、熱処理や溶射といった表面処理の研究を行った後に、野村鍍金に入社。担当した、製鉄用の連続鋳造金型の耐食性を高めるための表面処理は、大学の研究を大きく活かすことができる分野であったが、「知識だけでは通用しなかった」と振り返る。

それでも、現場の協力を得て、その経験を活かすことで、鉄鋼メーカーが課題としていた、耐食性を大幅に向上させることに成功。時には現場と意見がぶつかり合い、苦勞と苦悩もあったが、「出来上がった時の達成感は大きく、それが次の製品に繋がっている」と語る。

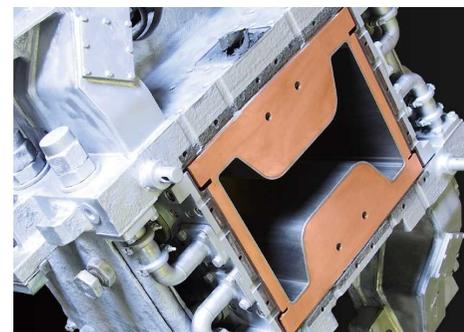
連続鋳造金型の表面処理に関しては、実践したことが世界一の技術を有していると自負する一方で、「めっきはまだ奥深く、勉強中」と語り、驕ることなく日々の研鑽に努めている。

#### ◆作業風景写真



[連続鋳造用鋳型のめっき仕上がり状態の確認]

#### ◆作品写真



[製鉄用連続鋳造用金型内部への合金めっき品]

## ◆宙吹きガラス成形加工の第一人者

## 沖縄県推薦

手作りガラス工芸の製作に長年従事し、特に顧客の多様化する要望に、迅速的確に対応できるなど、宙吹きによるガラス成形加工に優れた技能を有している。また、常に向上心を持ち、琉球ガラスの品質改良、新技法の開発等に取り組み、製造工程の標準化を実現し、商品化につなげた。さらに、その過程で見出された製法を他職人と共有し、更なる技術継承を実現するなど業界発展に貢献している。

## ◆ガラスの声を聴き、多くの人々へ感動を届ける

伊良部島（宮古島の隣の島）の中学校卒業後、三味線職人を志し、単身、郷里を離れて沖縄本島に渡った後、17歳でガラス工場の見習工となって以来、ガラス職人として54年の月日が流れた。

初めて、ガラス工芸を見た時に、「言いしれぬ感動を覚えた」ことで、同じ体験をしてもらいたいと、「多くの方々に感動を与える作品作り」をモットーとしている。また、ガラスは「モノは云わぬが表情がある」とも語り、吹き手に心の迷い、雑念があると、それが作品に出てしまうことから、吹き竿を握ったときには、「集中＝無心」を心掛けている。

今回、卓越した技能者の表彰の被表彰者となり、支えてもらった先輩や同僚への感謝の念を示すとともに、「多くの人に感動を与えられる作品作り」に尚一層努力するとともに、後輩職人の指導育成に全力を注ぎたい」と気を引き締めている。

## ◆作業風景写真

## ◆作品写真



[洋バシを使用して成形中の作業]



[深海シリーズの「壺(瑞海)」]

5 大林 登美子 氏 (90歳)

美容師【(有) ミナミ美容室 TEL:075-561-2277】

《名簿番号111》

◆生活様式の変化等を踏まえた古墳時代から現代までの多種多様な髪型を再現

京都府推薦

生活様式の変化等を踏まえた古墳時代から現代までの多種多様な髪型の再現など、日本髪結髪の伝統的技能に卓越している。また、伊勢神宮の遷宮にあたり、過去2回、祭主の結髪及び着付に携わるなど、日本を代表する数々の祭祀、祭りの結髪・化粧・着付けに関わっている。更に、京都美容文化クラブ代表・京都日本髪結髪保存会宗師として後進技術者の指導・育成、技能の伝承にも貢献している。

◆次の時代へ「日本髪の歴史を守り正しく伝える」

幼少期より、京都・祇園で舞妓さん、芸妓さんの髪結いをしていた祖母が営む先々代のミナミ美容室に預けられ、先々代、先代の仕事場が遊び場であった。その中で自然と髪結いの世界に溶け込んでいき、先代を「師匠」として見て習い、修業を重ね、習う身からいつしか教える身となった。74年余りの美容師生活の中で、つらいことや悲しいことを乗り越えながら、「関係者のご協力、ご支援を賜りながら、今日がある」と日々感謝している。

日本髪の伝統を守り、伝承するための協力を惜しまなかった亡き夫のためにも、「命ある限り、次の世代に正しい技術、時代考証を伝えていかねばならない」と語り、現在も勉強し、努力することで自分自身と技術を磨くとともに、日本の伝統文化継承に役立てるよう、後継者育成に努めている。

◆作業風景写真



[斎王代の髪飾り～蟻結びの白い「日蔭糸」を付ける～]

◆作品写真



[葵祭 斎王代]

6 出町 睦子 氏 (82歳)

表具師【出町竹苞堂 TEL:0766-22-5509】

《名簿番号130》

◆箔細工の表現を開拓した表具師

一般推薦

表具師として長年に渡り、金箔、銀箔、プラチナ箔を裂地に押し張り、針先で幾筋も引き搔き、光の方向性で箔に濃淡を与える技法に卓越し、表装技能を研鑽している。掛軸、屏風、額以外にその技法で、立体的な造形作品を創作し、様々な作品展で発表するなど意欲的に活動している。また各地で開催する講習会の講師を務め、後進の技能向上に貢献している。

◆どうやれば楽しく表現したい物ができるのか、考え続けて仕事をする

金沢美術工芸大学在学中、襖の張替えのアルバイトにしたことがきっかけで、大学卒業後に表具の道を志す。21年間、特定の師匠を持つことなく、表具の技を自己研鑽した後、43歳で出町竹苞堂を開業し、平成12年までの間に5人の弟子を育成した。

師匠を持たなかったため、後継者育成の方法など、技能以外に引き継ぐ事も自身で考案しなければならず、「それが苦勞の1つでもあり、楽しい事でもあった」と語る。

5人目の弟子を育成後は、創作性の高い屏風や立体作品の製作に重点を切り替え、箔細工を基礎に考案した「きんぱくかきおとし金箔搔落」を用いた作品が、多方面で高い評価を得る。それを「大変嬉しく思う」としながら、新たな創作に日々邁進している。

◆作業風景写真



きんぱくかきおとし  
[金箔搔落を施した後、更に金箔、銀箔を重ねていく]

◆作品写真



しあわせ  
[四合せ]